

第2回ワークショップのまとめ

第2回ワークショップの各グループ成果物の概要

第2回ワークショップの各グループの成果物の概要は以下のとおり

グループ1 (地元団体)

- いくつかのキーワードは重なりあうとともに、“にぎわい”という観点が重要
- 地区として防災の観点は欠かすことができない。災害時の備蓄に加え、多目的スペースが受け入れ空間となることが期待される
- 石神井公園が存在することを背景としつつ、みどりや樹木の存在が非常に重要なエリアとなる。屋上緑化等によって憩いの空間も創出できるうえ、遮熱効果も生まれることで脱炭素への貢献も想定される
- アトリエ・工房などの活動自体を発信できる空間づくりや、貸スペースなどは音をだしたり騒いでも問題にならない空間。多目的に活用できるがらんだ空間ではなく、設備は整っている必要がある
- 正形ではない敷地だが、不正形であることを活かした特徴ある建築

グループ2 (公募区民)

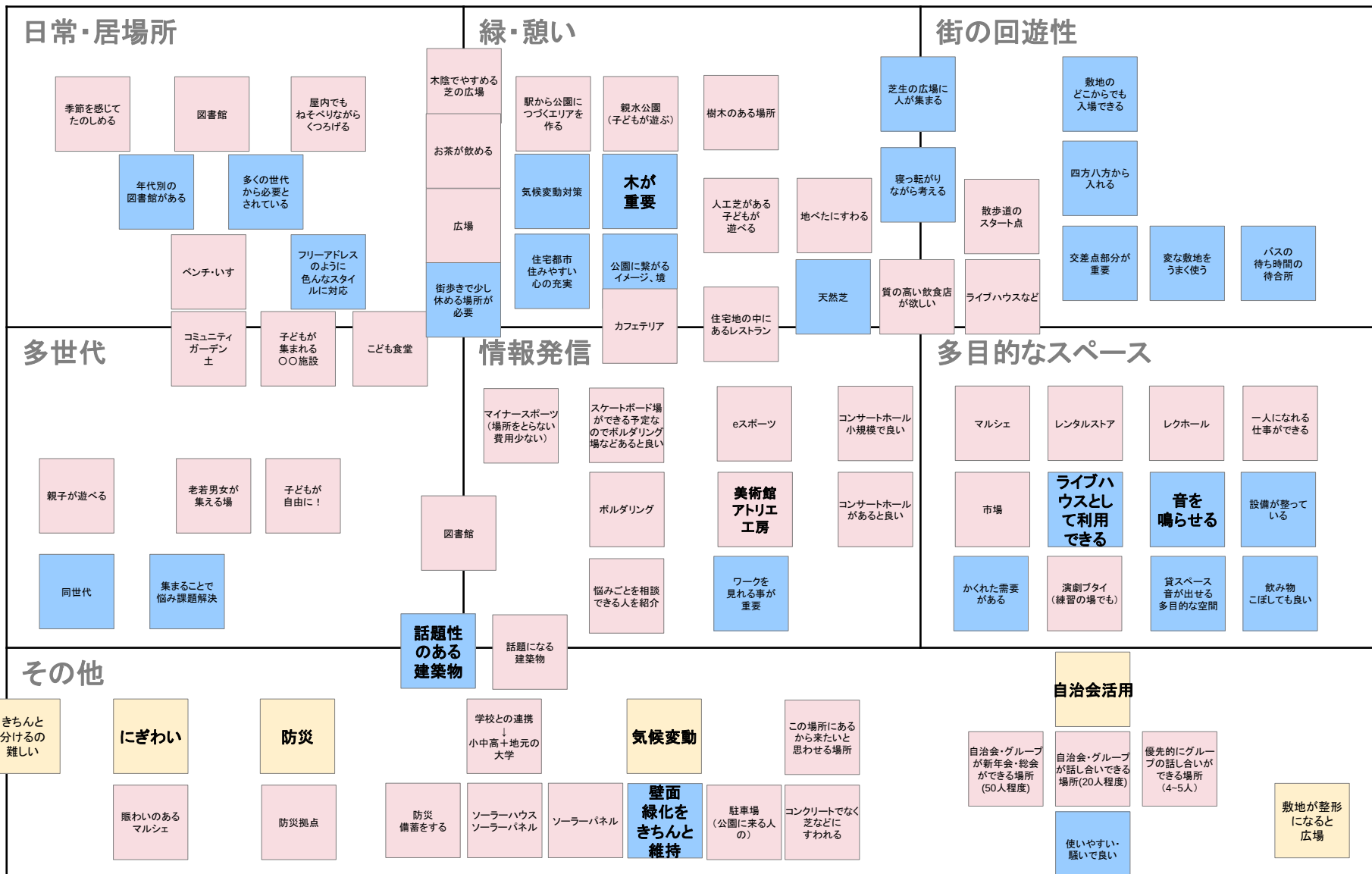
- 誰もが気軽に立ち寄ることができ、人々の居場所となるような、ベンチや水辺のある空間を設置
- 安全な「まち歩き」の促進と周辺地域へのアクセス向上を図り、自動車が入らない空間や道路を整備
- 非常時の避難場所や防災・減災情報を提供する、地域の防災拠点となる施設
- シアターや展示スペース、ホールなどを備えた、地域の文化を支え・発信できる拠点となるような施設
- 子育て・若者等の悩みに寄り添い支援する、またはチャレンジを後押しするコンシェルジュ的な機能
- プログラムの企画などコーディネートする主体を設置し自由度の高い空間を有効活用するマネジメント
- マルシェや植木市等のイベントを開催でき、キッチンカーも誘致できる自由度の高い半屋外空間

グループ3 (高校生)

- 第1回ワークショップの3グループ共通キーワード(以下、キーワード)の内、「日常・居場所」「緑・憩い」「多世代」「多目的なスペース」が特に重要
- 「日常・居場所」: 買い物や飲食のニーズをまとめて叶え、1日中過ごせる場所として整備
- 「緑・憩い」: みどりあふれる街の景観を損ねず、環境にやさしい施設設計
- 「多世代」: 各世代のニーズを叶える機能の導入、多世代交流ができる場所(・イベント)の整備(・運営)
- 「多目的スペース」: 中と外で一体的な活用ができる場の整備(例えば、外のスペースにキッチンカーを誘致し、施設の中と外を一体的に盛り上げることで、外の賑わいが広がり、「まちの回遊性」にも繋げるイメージ)

グループ1の成果物

※地元団体の委員を中心としたグループ



凡例: キーワードもしくはその他に対して、

イメージする空間、施設

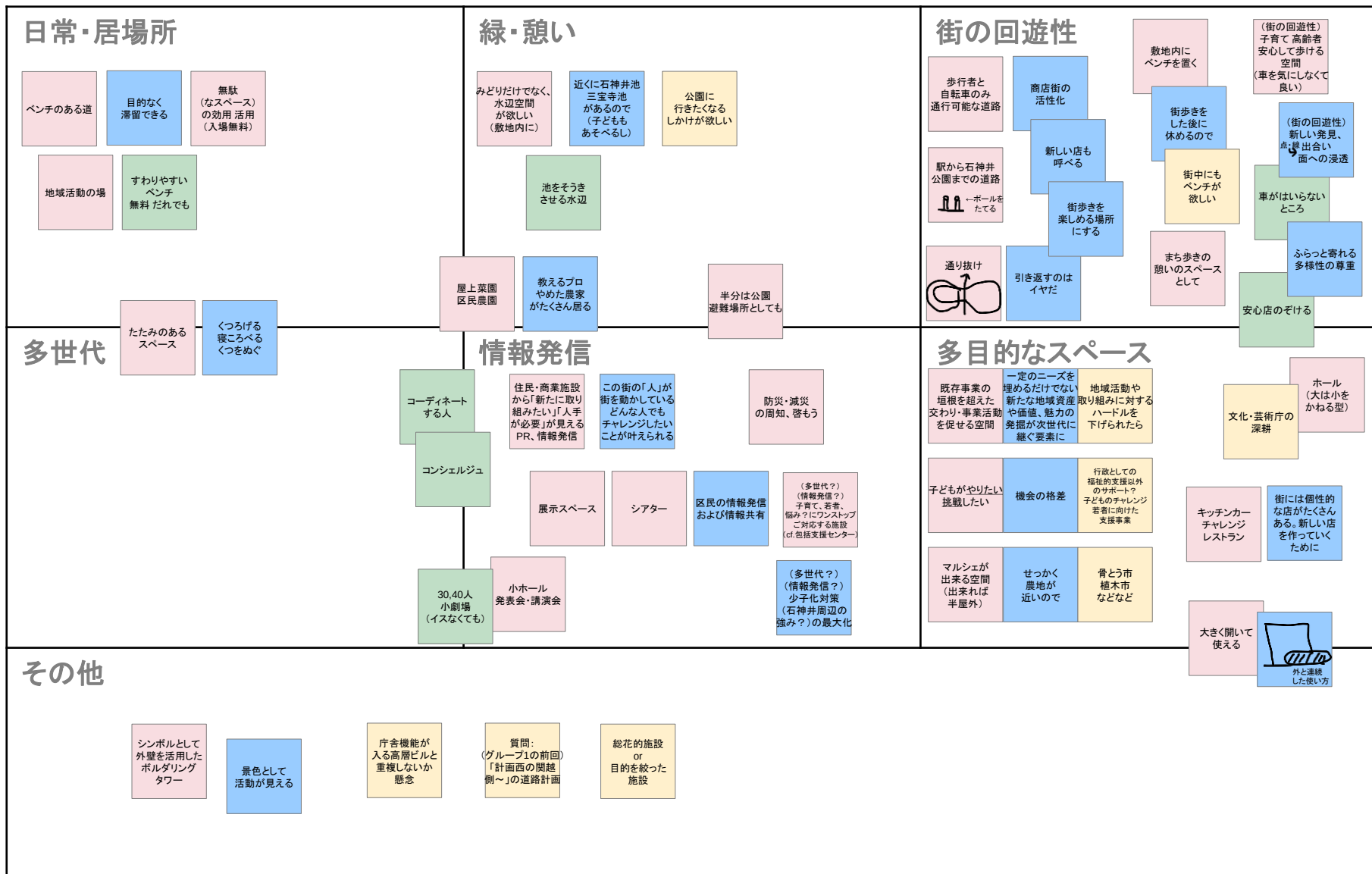
なぜ大切なのか、何を大切にするのか

その他

※付箋は第1回ワークショップから貼り替えをしているものもあるため、凡例は必ずしもこの通りではない

グループ2の成果物

※公募区民の委員を中心としたグループ



凡例: キーワードもしくはその他に対して、

イメージする空間、施設

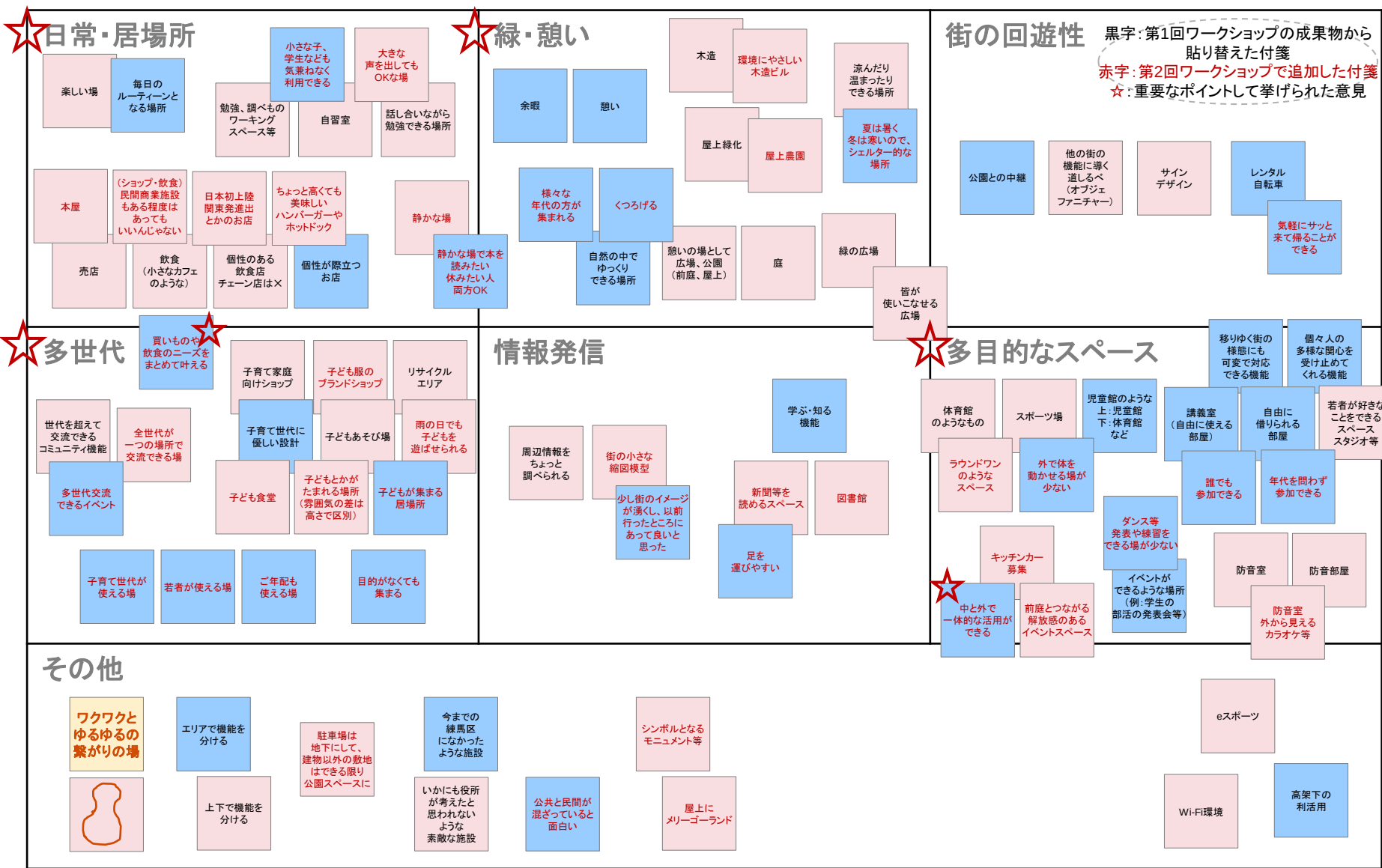
なぜ大切なのか、何を大切にするのか

その他

※付箋は第1回ワークショップから貼り替えをしているものもあるため、凡例は必ずしもこの通りではない

グループ3の成果物

※高校生を中心としたグループ



凡例: キーワードもしくはその他に対して、

イメージする空間、施設

なぜ大切なのか、何を大切にするのか

その他

※付箋は第1回ワークショップから貼り替えをしているものもあるため、凡例は必ずしもこの通りではない

第2回ワークショップの全体意見交換でいただいたご意見(1/2)

キーワード(6項目)に関するご意見は以下のとおり

凡例: キーワード自体に対するご意見

キーワード (6項目) に関するご意見

(日常・居場所)

- ・ベンチやフリースペース等、テナント等で購買したものを食べられるような場所があるといい(目的なく訪れた方も、その場で何かが始まるような仕掛けづくり)

(緑・憩い)

- ・人が屋外で集えるような場所があるといい
- ・自分が利用すること想定した際に、友人の元気なお年寄りに対し「石神井公園に来ない？」と誘い、石神井公園や三宝寺池などまちの歴史について話しながら楽しく散歩するようなイメージを持った
- ・まち歩きにつながる、車が入らない散歩道がほしい

(街の回遊性)

- ・施設内で完結するのではなく、敷地外のまちの魅力がさらに高まるような(地域一帯で1日中楽しめる)施設としたい
- ・駅や商店街、公園を線的、面的に繋ぐような施設であると良い

(多世代)

- ・「多世代」はハードの問題ではなくソフトの問題であるため、メタレイヤーで良い可能性がある
- ・多世代へ向けた施設を整備するというよりは、結果として多世代が集まる場であると良い
- ・子育てや若者支援に対応していくことが重要であり、練馬区の強みとしてもアピールできるような施設になると良い
- ・店舗出店やイベント(学生の部活発表、子ども服のリサイクル等)の開催を通し、世代を超えた関わりが生まれる施設であってほしい
- ・ポッチャのようなスポーツであれば会議室のようなスペースで、障がいのある方や若い方、お年寄りが交流できる

(情報発信)

- ・「情報発信」は機能としての情報発信なのか、施設のシンボリックさで発信するのか、定義が委員内ですり合っていない。キーワードとして残す必要があるのか検討いただきたい
- ・「情報発信」にはまちの歴史等を発信するという側面と、この施設で行われる様々な活動を外に発信する側面がある

(多目的なスペース)

- ・「多目的なスペース」は他キーワードに比べて意見が多く挙げられたため重要な視点と考えるが、1つのスペースで音楽や料理等、異なる設備を必要とする機能を担うことは困難であることに留意すべき
- ・チャレンジレストランという形で事業者がトライアルで出店できるようなスペースやシェアキッチン等、新しいビジネスを応援できるような施設があると良い
- ・若者が演劇活動や軽音楽の練習をできるような防音スペースがあると良い
- ・町内会のようなグループ(20人前後)が集まり、音を出すことのできるスペースがほしい
- ・武蔵野プレイスのような1人で作業できるようなスペースや、複数人で勉強ができるスペースがあると良い

第2回ワークショップの全体意見交換でいただいたご意見(2/2)

施設全体のイメージやその他に関するご意見は以下のとおり

施設全体の イメージ に関するご意見

(コンセプト)

- 目的がある方とない方のどちらも楽しめるような、様々な機能のある建物になると面白い
- 住民としての暮らしの延長線上にある施設となるべきか、シンボリックで練馬ならではの日常とは一線を画した特別な場所となるべきか悩ましい
- 様々な目的の方が集まるパブリックスペースとしての役割は大事にしたい、受動的に参加したい方と主体的に関わりた方が緩やかに交わる場になると良い
- 落ち着いた無目的なスペースと、にぎわったカフェや飲食テナントのどちらもあると良い

(デザイン)

- シンボリックで話題になる景観でありつつ、先の世代に見つめたような落ち着いた外観・デザインになると良い
- 石神井公園の来訪目的となるようなシンボリックな景観と、日常・居場所という視点を両立させたい
- 庁舎跡地の地形を利用した、様々な機能を持つ空間にしたい
- ひょうたん型の施設が良いと思う

(導入機能)

- 挙げられた機能等の意見について、なるべく多くの要素を織り込んだ施設になってほしい

その他 のご意見

(追加キーワード)

- (防災に対応できる、防災・減災の情報発信をできる等の)防災の視点も重要であり、「日常・居場所」や「緑・憩い」に含めるか別途でキーワードとして整理するか検討いただきたい
- 「賑わい」という要素も重要

(今後の検討に際する留意点)

- 自分がどのような施設であれば利用するか、という視点で検討すべき
- 石神井公園一帯としての変化という視点を持ち検討すべき
- (多目的スペースの運営は難しいことから、)施設のマネジメントや収支の観点を持って検討すべき

(石神井のまち全体に対する意見)

- 石神井公園の良さをより引き出せるよう、対象地を含むまち全体が整備されると良い
- パークロードに車どおりが多く、まち歩きが妨げられている状態が改善されると良い